

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた 「上手な医療のかかり方」

～過度な受診控えは健康上のリスクを高めます～

新型コロナウイルス感染症への感染の懸念等により、医療機関への受診を控える傾向が高まっています。**過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性もあります。**

自己判断で受診を控えると慢性疾患の症状悪化や免疫力低下によりウイルスに対抗できない状態になることもあります。まずは、かかりつけ医にご相談ください。

赤ちゃんの予防接種を遅らせると、免疫がつくのが遅れ、 重い感染症になるリスクが高まります

予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。

まだ接種期間内の人で予防接種がお済みでない人は、お早めにお済ませください。

生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくとき、赤ちゃんがかかりやすい感染症（百日せき、細菌性髄膜炎など）から赤ちゃんを守るために、とても大切です。



乳幼児健診は、医師、歯科医師、保健師、助産師などに 相談できる機会です

子どもの健康状態を定期的に確認し、育児で分からないことや悩んでいることは遠慮せず何でも聞きましょう。

新型コロナウイルスの感染の流行状況等を踏まえ、実施方法等を変更している場合があります。

詳しくは保健センターにお問合せください。



生活習慣病も、がんも、定期的な健診が早期発見に つながります

自覚症状が現れにくい、そんな病気は少なくありません。だからこそ、生活習慣病の予防に定期的な健診で健康状態をチェックしましょう。自分の体を知ることが、健康維持の第一歩です。がんは、2人に1人がかかると言われています。早期がんでは無症状であることがほとんどなので、症状がなくても定期的ながん検診を受けることが早期発見・早期治療につながります。また、健康な生活のためには、お口の健康管理も重要です。



医療機関や健診会場では、換気や消毒でしっかり感染 防止対策をしています

予防接種は、事前に予約しましょう。医療機関によっては一般の受診患者と別の時間や場所で受けられます。健診やがん検診は、受付時間や受診者同士の間隔などに配慮しています。受診時の注意事項を守って受診しましょう。



問 保健センター (☎82-8211)